

環境経営推進ソリューション “ MELGREEN ”

“ MELGREEN ”: Solution for Promotion of Environmental Management

1. グリーンITとは

2007年以降、“グリーンIT”というキーワードが急速に注目され、米国調査会社のガートナーでも、2008年の“戦略的技術・トレンド”として位置付けるほど、グリーンITの取り組みが具体化しつつある。一方、世界的に取り組みが進められている地球温暖化対策の現状としては、京都議定書の第一拘束期間が2008年から始まり、日本の場合、基準年である1990年に対して温室効果ガスを2008～2012年に6%削減することが目標になっているが、現状、目標達成が困難な状況に置かれている。2006年度の日本の温室効果ガス総排出量は約13億4,100万トンで、基準年の1990年比で6.4%増加した。部門別にみると、基準年よりも2006年度の排出量が削減されているのは工場などの産業部門(-5.6%)だけで、その他の部門は増加している。その中でも増加率が突出しているのが、ITなどをフル活用しているオフィス分野(業務その他部門)で、その伸び率は41.7%にもなる。ITの普及・拡大に伴い、インターネット上を駆け巡る情報は急増し、2025年には現在の約200倍になると言われている。そのデータを適切に処理するためにIT機器が様々な場面で活用されることで、IT機器によるCO₂排出量の増加と電力消費量の増大が予想されている。グリーンITでは、IT機器の省エネルギー化(ITにおけるグリーン化)とともに、ITの利活用で環境負荷を低減すること(ITによるグリーン化)が重要になる。企業では、地球温暖化対策としてCO₂排出量の削減が緊急の経営課題になってくる。

2. 企業にとってグリーンITの効果とは

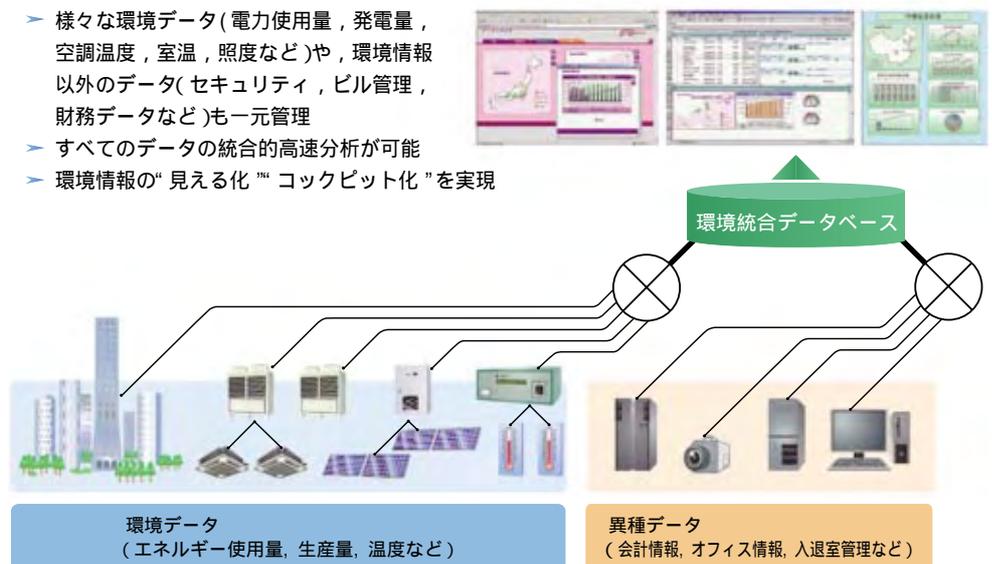
欧米企業では、IT機器の省電力化や、ITを利用した環境配慮がトップダウンで進んでいる。環境対策は企業の社会的責任としてとらえているため、経営層がグリーンITを主導している。今後、日本企業もそのような意識を持ち、環境対策が経営層にとっての課題になるため、企業の環境面での取り組みがどのような効果

を上げたのかを経営層に示すため、自社の成熟度を“見える化”する必要がある。“見える化”によって、グリーンITを進めることによる企業活動におけるコスト削減効果と、CO₂排出量の削減といった環境対策の効果の両方を確認することができるようになる。

3. 環境経営推進ソリューション“ MELGREEN ”

そこで当社では、ITによるグリーン化のソリューションとして、環境対策の効果を“見える化”する環境経営推進ソリューション“ MELGREEN^(注)”を開発した。MELGREENは、オフィスや工場などから発生する多種・多様な大量データを収集し、一元管理することで、省エネルギーや温暖化対策など、企業の環境に関する取り組みに必要な情報を最適な形式・タイミングで提供する環境経営を軸としたビジネスインテリジェンスソリューションである。多様な環境データの取り込み(電力使用量、空調温度、室温、照度など)、環境以外のデータの取り込み(セキュリティ、ビル管理、財務データなど)、すべてのデータの一元管理・統合的高速分析、環境情報の“見える化”“コックピット化”の機能を持つ。特に、この機能では、一元管理した全社データから、どこを変えることがCO₂排出量の最も効果的な削減に結びつくかを見える化する。今後、企業のグリーンITへの取り組みを定量的に評価し、具体的なアクションにつなげていく手法などをソリューションの機能として提供していく予定である。

- ▶ 様々な環境データ(電力使用量、発電量、空調温度、室温、照度など)や、環境情報以外のデータ(セキュリティ、ビル管理、財務データなど)も一元管理
- ▶ すべてのデータの統合的高速分析が可能
- ▶ 環境情報の“見える化”“コックピット化”を実現



MELGREENの概要

<取り扱い：三菱電機インフォメーションテクノロジー(株) TEL：03-6414-8122>

仮想化技術によるサーバ統合プラットフォーム“CENTRAGE”シリーズ

“CENTRAGE”：Server Consolidation Platform with Virtual Machine Technology

顧客が永年にわたり蓄積してきたアプリケーション資産を継承しながら、企業内に分散する複数のサーバを容易かつ効率的に統合できる基幹業務サーバの新シリーズとして、三菱電機データセントリックソリューション“CENTRAGE”シリーズを開発した。

CENTRAGEシリーズの主な特長は次のとおりである。

(1) 複数サーバの統合が容易

全モデルに仮想化技術を標準搭載し、サーバ統合の際に必要な各種リソース設計などをあらかじめ設計・構築済みで提供するため、導入が容易である。また、ハードウェア、仮想化環境、ソフトウェアを統合的に管理・監視できる統合運用機能の提供によって、導入後の運用負荷も軽減できる。さらに、サーバ統合によってより高い可用性が求められるため、“N + 1冗長”の機能によって効率のよい冗長化を実現している。

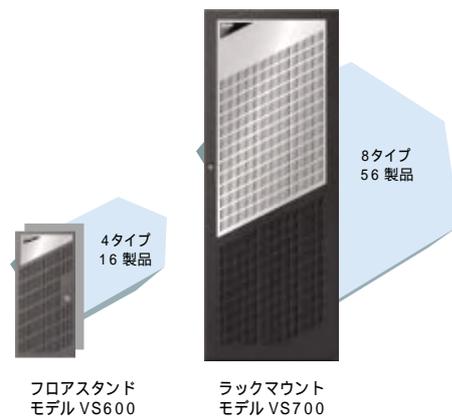
(2) アプリケーション連携が容易

オプションのデータセントリックユニットを使えば、統合したサーバのアプリケーション連携、データ連携など、システム間をまたがるデータを連携させて利活用できるの

で、より迅速な経営判断を支援するシステム構築が可能になる。

(3) グリーンITに対応

例えば、中規模オフィスサーバ2台 + パソコンサーバ2台をCENTRAGEへサーバ統合した場合、年間約4.5tのCO₂排出量削減となる。



CENTRAGEシリーズのラインアップ

< 取り扱い：三菱電機インフォメーションテクノロジー(株) TEL：03-6414-8052 >

関西国際空港向け旅客案内情報システム

Passenger Information System for Kansai International Airport

関西国際空港向け旅客案内情報システムのリブレース工事を2008年3月に完了した。このシステムは、表示器(50インチDLP^(注)(Digital Light Processing)×40台、46インチTFT(Thin Film Transistor)×32台、40インチTFT×532台)や音声設備によって、フライト情報等を空港利用者・スタッフに案内する。

今回のリブレースでは、チェックインカウンター案内・道路情報案内・貨物便案内を加え、総合案内システムとして、案内サービスを充実させた。主な特長は次のとおりである。

- (1) 日英中韓の4か国語表示
- (2) 表示すべき情報量によって文字サイズを調整、優先する情報に応じて注目される画面に変更する等の柔軟な画面デザイン
- (3) 便の進行状況・備考・理由など複数情報を同時に表示、搭乗ゲートで優先搭乗の案内を高解像度のイメージで表示する等の表示情報の充実
- (4) 表示器の制御装置としてディスクリスのセットトップボックスを採用する等、可用性を向上



DLP型表示器



TFT型表示器